

令和元年度第2回青梅市行財政改革推進委員会議事概要

1 日 時

令和元年7月25日(木) 午前9時30分から午前10時53分

2 場 所

青梅市役所 議会棟3階 第3委員会室

3 出席者

[出席委員]

菊池一夫委員	水村美穂子委員	川合純委員
原島正之委員	宇津木順一委員	田邊晃委員
大住修司委員	伊藤武夫委員	細谷秀秋委員

[出席青梅市職員]

浜中青梅市長以下10名

4 委嘱状交付

5 議事概要

(1) 市長あいさつ

(2) 委員自己紹介

(3) 理事者および職員紹介

(4) 議題

ア 委員長の選任

菊池委員が推薦され承認された。

イ 委員長職務代理者の指名

菊池委員長から水村委員が指名され、承認された。

ウ 青梅市行財政改革推進委員会 令和元年度運営方法等について 【財政課長説明】

委員会および今年度の取組概要の説明。

エ 青梅市行財政改革推進プランを推進するための委員会における新たな取組の進め方について 【財政課長説明】

青梅市行財政改革推進プランの推進に対する委員間の意見交換の方法について協議。

(5) その他 【財政課長説明】

次回委員会は、令和元年9月～10月に開催予定。

6 主な質疑・意見等

(1) 青梅市行財政改革推進委員会 令和元年度運営方法等について

- [Q] 外部評価については、委員会でまとめたものを指すのか、あるいは市民に評価してもらうものを指すのか。
- [A] 市民の代表で出席している委員の皆さんで行っていただくのが外部評価となる。
- [Q] 今年度の委員会では、前半は行政評価事業に対する外部評価、後半は行革推進プランの中から項目を選び、それに対する意見交換を行うということによいか。
- [A] そのとおり。
- [Q] 青梅市行政評価シートというのは、どこが評価を行ったものか。
- [A] 市である。
- [Q] 外部評価については、PDCAサイクルの「DO」の事業を実施した後のチェックをするということで、行動を起こす前の事前のチェックということではないということによいか。
- [A] そのとおり。
- [Q] 前期委員会の取組においてやり残しはないのか。
- [A] 前期委員会の取組は完結している。

(2) 青梅市行財政改革推進プランを推進するための委員会における新たな取組の進め方について

- [Q] 今年度は、特定の項目を選んでやるのではなく、総花的にやっていくということか。
- [A] 行革推進プランについては、「取組区分」を設けたうえで、その中においてさらに「主な取組」を設定している。従来は、「主な取組」部分について選定の上意見をいただいていたが、今回は、「取組区分」を対象とした広い範囲でテーマを設定し、意見交換をしていただきたいと考えている。
- [Q] そうすると、ある程度テーマを絞っていかないと議論にならないため、「取組区分」の中からテーマを選ぶということによいか。
- [A] 行革推進プランについては、16の「取組区分」を設定しているため、この中からテーマを選定していただければと考える。
- [Q] テーマは、市の方から提示されるということではないのか。
- [A] 委員間で協議していただき、委員会でテーマを選定していただきたい。
- [Q] 本委員会に対し、何を求めるのか。
- [A] 委員会の開催は、委員会の所掌事項に対し、各委員からご意見をいただき、市政運営の参考とさせていただくことを目的としている。
- [Q] 本来、自分達が持っている問題意識を出し合って議論することに対し、参考資料として行革推進プランを提供してもらっているということなのか。それとも行革推進プランの内容について議論するということなのか。
- [A] 市としては、行財政改革を進めていく上で、その基本的な柱が行革推進プランであることから、これを中心にご意見をいただきたいと考えている。

- [意見] 16の項目があって、時間的にも少ない中、その中でいろいろな意見をバラバラと出していてもまとまらない。議論の対象は絞っていった方がよいと思う。
- [意見] 行革推進プランに対する意見交換のテーマの絞り込みを第4回委員会で行うということであるが、時間の合理化を図る上でも、第3回委員会の中で、フリートーキングをして、ある程度意見を出し合った方が、第4回委員会もスムーズに進むのではないかと。
- [Q] 本委員会の開催回数は、4回に縛られるのではなく、随時行うことができるのか、それとも、当初予定されている4回の中で納めなければならないのか。
- [A] 年度によって回数は変わっているので、回数を変えることは可能であるが、委員の皆さんに負担が掛からないよう、年度の回数を決めているところである。
- [結論] 行革推進プランの取組項目全てに対しご意見をいただくことは時間的にも難しいと考えるので、皆様でフリートークをする中で、特にここが関心あるというものを、1項目でも2項目でも選んでいただき、その項目についてご意見を聞かせていただきたいというのが市の考えである。
- [意見] 前期の取組でも、いろいろな問題意識を話す中で、これが重要な問題だと分かった段階で、それがプランの取組項目のどれに当たるのかという形で検証項目を選んだ経過がある。それを踏まえると、最初に16区分の中から対象を選んで意見交換をするのではなく、一番大事なことはどういうことかを議論した後、その内容は取組区分のどこに当たるのかという視点で対象を選定するやり方がよいと思う。
- [意見] 第3回委員会でフリートーキングを行い、全体の意見を聞いて、その中から1つに絞ればよいのではないかと。そうすれば、ある程度市に対するいろいろな意見が出てくるのではないかと。
- [意見] 各委員が感じる問題点を出し合うのも重要だと思う。
- [Q] 各委員の関心項目を報告するためのシートを用意することは可能か。
- [A] 用意して各委員に送付する。
- [Q] 議論を進めるに当たり、資料の提供を事務局に求めることは可能か。
- [A] 可能である。
- [結論] 第3回委員会では、委員の皆さんが関心のあることについてフリートーキングしていただき、それらがプランのどこに当てはまるかが分からないため、それについて議論し、次回につなげていくこととする。

以上